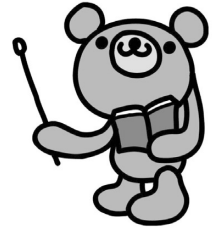


2 保護者に対する相談窓口

保護者に対する学校の相談窓口となり、保護者を支援します。



☆ポイント

- ・保護者の気持ちの受け止め
- ・保護者とともに考える対応策
- ・保護者への支援体制



Q7 保護者に対しては、どのようなことを行えばよいですか。

- A. 児童生徒の理解を深めるための援助を行います。家庭での様子や保護者の悩んでいることを聞き、児童生徒に対しての共通理解や課題の確認を行うとともに、家庭での生活や学習についての相談や助言を行います。



Q8 保護者に対応する際に配慮すべき点は、どのようなことですか。

- A. 発達障害のある子どもを育てている保護者は、「しつけが悪いから」「愛情が足りなかったから」等の言葉にさらされ、子育てに自信を無くしていることも多く見られます。そのような保護者の気持ちをしっかりと受け止め、受容、共感の姿勢を大切に、信頼関係を築けるように配慮していくことが大切です。
- その際、学校が問題として感じていることを事実として伝えることも大切ですが、子ども自身が困っているという視点にたって伝えていくことも必要です。
- そのためには、カウンセリングマインド、障害についての知識、アセスメントの技能等も求められます。



Q 9 保護者とともに考えるためには、児童生徒のどのような情報を聞き取ればよいですか。

- A. 保護者の子どもへの願いや課題と思っているところが、学習面か、社会面か、行動面かなどを聞いていく必要があります。その時に、巻末の④支援シートなどがあるれば、整理して聞くことができます。

コーディネーターとしては、担任と保護者の間に立ち、保護者の考え方や願いを理解し、よりよい指導や支援が実現できるように連絡調整することも大切です。それぞれの立場で、今できることを考え、共通認識のもとに、一貫した対応ができるようにしておくことが大切です。



Q 10 保護者への支援体制は、どのように構築していけばよいですか。

- A. 学校体制として保護者からの相談窓口を学級担任やコーディネーターだけでなく、校内委員会のメンバーを含める等、複数の窓口を用意することが大切です。

相談があった際には、担任とコーディネーターが連絡を取り合うことを保護者に説明し、担任とともに組織的、継続的に保護者を支援することへの理解を得ることが大切です。状況によっては、校内委員会や専門家チームでの協議について説明することも必要です。

保護者が子どもについて気になる時は、学級担任以外にもコーディネーター等の相談窓口があることを、日頃から広報しておくことが大切になります。